

S3 DriveBridge ユーザーマニュアル

GratiasLLC. S3 DriveBridge の設定・操作方法を、画面キャプチャとともに解説します。インストールから日常利用、ライセンス管理、各種ツール機能までを網羅した参照マニュアルです。

1. はじめに

S3 DriveBridge は、Amazon S3(または互換のS3ストレージ)を Windows のネットワークドライブとしてマウントし、エクスプローラーから通常のフォルダと同じ感覚で読み書きできるようにするデスクトップアプリケーションです。

本マニュアルは、実際にドライブを設定・運用する担当者(情報システム担当・各部門の管理者など)を対象としています。管理者から配布されたライセンスファイルを使ってアクティベーションする方法も含まれます。

対応環境

Windows 上で動作します。ドライブのマウントには WinFsp が必要です(次章参照)。

2. インストール

S3 DriveBridge のインストールには、事前に WinFsp というドライバーのインストールが必要です。これは S3 DriveBridge のインストーラーには同梱されていません(WinFsp のライセンス条件による制約のため)。

重要: WinFsp を先にインストールしてください

WinFsp が未インストールの状態ではインストーラーを実行すると、案内画面が表示されます。「OK」を押すと WinFsp のダウンロードページ(<https://winfsp.dev>)がブラウザで開くので、先に WinFsp をインストール・セットアップを完了させてから、このインストーラーを再実行してください。無人インストール(サイレントインストール)の場合は、案内画面の代わりにインストールがブロックされます。

「Windows によって PC が保護されました」と表示された場合

インストーラーを実行すると、青い画面で「Windows によって PC が保護されました」と表示されることがあります。これは、実行ファイルにコード署名が行われていない場合に Windows が表示するもので、ウイルスや不具合を検出したという意味ではありません。画面内の「詳細情報」をクリックし、続いて表示される「実行」を選択すると、インストールを続行できます。ダウンロードしたファイルが改ざんされていないことは、配布ページに掲載している SHA-256 のハッシュ値で確認できます(PowerShell で `Get-FileHash <ファイル名>` を実行し、記載の値と一致することをご確認ください)。

インストーラーの操作手順

- 1 WinFsp のインストールが完了していることを確認します。
- 2 S3 DriveBridge のインストーラー(MSI)を実行します。使用許諾契約を確認します。
- 3 インストール先フォルダを選択します(既定は `Program Files\GratiasLLC S3 DriveBridge`)。「変更」ボタンで任意の場所に変更できます。
- 4 デスクトップにショートカットを作成するかどうかのチェックボックスが表示されます(既定でチェック済み)。不要な場合はチェックを外します。
- 5 内容を確認して「インストール」を実行します。

インストールが完了すると、スタートメニューに「S3 DriveBridge Settings」ショートカットが作成されます。

3. メイン画面

アプリを起動すると、以下のメイン画面(GratiasLLC. S3 DriveBridge - 設定)が表示されます。設定済みのドライブが一覧表示され、この画面からすべての操作を行います。

GratiasLLC. S3 DriveBridge - 設定
ファイル(F) 設定(S) ツール(T) ヘルプ(H)
新規 編集 削除 マウント アンマウント

表示名	ドライブ	バケット	モード	状態
S3_1	Z:	gratias-s3-test	読み書き	未マウント

ライセンス状態: 試用期間中(残り25日)

メイン画面。表示名・ドライブレター・バケット・モード・状態が一覧表示される。

メニューとツールバー

上部のメニューバーとツールバーから、主な操作を実行できます。

メニュー	項目	内容
ファイル(F)	新規ドライブ(N)	ドライブ設定ダイアログを新規作成モードで開く
	終了(X)	アプリを完全に終了する(トレイに常駐させたくない場合)
設定(S)	ログ設定(L)	ログ保存先・詳細ログ・保持世代数を設定
	ライセンス(C)	ライセンスの状態確認・有効化
	表示言語(G)	日本語/English/OS設定に従う、を切替
ツール(T)	ファイル共有リンクを生成(G)	期限付きの共有URLを発行
	共有リンクの管理(S)	生成済みリンクの履歴一覧
	バージョン履歴(V)	過去バージョンの確認・復元
	使用状況とコスト目安(U)	ドライブ別の利用量・概算コスト
ヘルプ(H)	バージョン情報(A)	アプリのバージョン・発行元を表示

ツールバーのボタン(新規 / 編集 / 削除 / マウント / アンマウント)は、一覧で選択した行に対して操作します。

ウィンドウを閉じてでも終了しません

メイン画面の × ボタンを押してもアプリは終了せず、システムトレイに常駐し続けます。完全に終了するには「ファイル」→「終了」、またはトレイアイコンの「終了」を選んでください。

4. ドライブを追加する

ツールバーの「新規」(またはファイル→新規ドライブ)をクリックすると、「ドライブ設定」ダイアログが開きます。5つのタブで詳細な設定が行えます。

4.1 基本設定

最低限、この基本設定タブだけ入力すればドライブを追加できます。

- **表示名** — ドライブ一覧やエクスプローラーに表示される名前
- **ドライブレター(1文字)** — 割り当てるドライブ文字(例: Y)
- **エンドポイントURL** — S3互換ストレージの接続先(AWS S3の場合は `https://s3.amazonaws.com`)
- **バケット名**
- **アクセスキー / シークレットキー**
- **リージョン(任意)**
- **署名バージョン** — 既定 V4(通常は変更不要。古い互換ストレージのみ V2)
- **チェックボックス: TLSで通信を暗号化する(既定オン) / 読み取り専用としてマウントする / 固定ディスクとして表示する**

ドライブ設定

基本設定 S3上級設定 プロキシ / 帯域制限 キャッシュ セキュリティ

表示名
経理部 共有ドライブ

ドライブレター (1文字)
Y

エンドポイントURL
http://localhost:9000

バケット名
gratias-demo

アクセスキー
demoaccess

シークレットキー
●●●●●●●●●●●●●●●●

リージョン (任意)
us-east-1

署名バージョン
V4

☐ TLSで通信を暗号化する
☐ 読み取り専用としてマウントする
☐ 固定ディスクとして表示する

接続テスト

接続に成功しました。

OK キャンセル

基本設定タブ。接続に必要な情報を入力する。

接続テスト

入力後、保存する前に「接続テスト」ボタンで実際に接続できるか確認できます。バケット名・エンドポイント・アクセスキーが未入力の場合は実行できません。

ドライブ設定

基本設定

S3上級設定

プロキシ / 帯域制限

キャッシュ

セキュリティ

表示名

経理部 共有ドライブ

ドライブレター (1文字)

Y

エンドポイントURL

http://localhost:9000

バケット名

grafias-demo

アクセスキー

demoaccess

シークレットキー

●●●●●●●●●●●●●●●●

リージョン (任意)

us-east-1

署名バージョン

V4

☐ TLSで通信を暗号化する

☐ 読み取り専用としてマウントする

☐ 実体ディスクとして表示する

接続テスト

接続に成功しました。

OK

キャンセル

接続に成功すると緑色で「接続に成功しました。」と表示される。

通信経路の確認(AWSバックボーン / インターネット経由)

接続テストに成功すると、続けてこの接続がAWSのネットワーク内部(バックボーン)を経由しているか、インターネット経由かを自動判定して表示します。このPCがAmazon EC2インスタンス上で動作しており、かつ接続先バケットと同一リージョンにある場合は「AWSバックボーン内」と判定され、データ転送料が発生しないことが分かります。エンドポイントがAmazon S3以外(MinIOなど互換ストレージ)の場合や、EC2インスタンスとして検出できなかった場合は、その旨が表示されます。現在の接続経路を確認したい場合も、既存ドライブの編集画面を開いて同じ「接続テスト」を再実行するだけで確認できます(専用の別画面はありません)。

ドライブ設定

基本設定

S3上級設定

プロキシ / 帯域制限

キャッシュ

セキュリティ

表示名

経理部 共有ドライブ

ドライブレター (1文字)

Y

エンドポイントURL

http://localhost:9000

バケット名

gratias-demo

アクセスキー

demoaccess

シークレットキー

●●●●●●●●●●●●●●●●

リージョン (任意)

us-east-1

署名バージョン

V4

☒ TLSで通信を暗号化する

☐ 読み取り専用としてマウントする

☐ 固定ディスクとして表示する

接続テスト

接続に成功しました。

通信経路: Amazon S3以外のエンドポイントのため、AWSバックボーン判定の対象外です。

OK

キャンセル

MinIOなどAmazon S3以外のエンドポイントでは「Amazon S3以外のエンドポイントのため、AWSバックボーン判定の対象外です。」と表示される。実際にAWS S3へ接続する場合は、AWSバックボーン内(同一リージョン)/AWSバックボーン経由(リージョンをまたぐ場合)/インターネット経由のいずれかが表示される。

編集・削除は「マウント中」だとできません

ドライブがマウントされている間は、一覧から編集・削除ができません。先にアンマウントしてください。

4.2 S3上級設定

ドライブ設定

基本設定 S3上級設定 プロキシ / 帯域制限 キャッシュ セキュリティ

ストレージクラス

Standard

サーバー側暗号化

None

☐ Transfer Accelerationを使用する

☒ MD5によるファイル整合性チェックを行う

☐ EC2から同一リージョンのS3に接続

有効にすると、「使用状況とコスト目安」でこのドライブの転送コストを\$0として計算します(AWSは同一リージョンのEC2⇄S3間のデータ転送を課金しません)。リクエスト回数の料金(PUT/GET/LIST/DELETE)は通信の場所に関係なく発生するため、対象外です。

最大同時アップロード数

4

最大同時ダウンロード数

4

☒ マルチパート転送を使用する(通信中断時に再開可能)

しきい値を超えるファイルは分割して転送し、通信が中断しても完了済みの部分から再開できます。アプリを再起動した場合は最初から再送されます。

分割転送のしきい値 (MB)

100

回線速度に応じて調整してください(低速回線: 10MB程度 / 高速回線: 200MB程度を推奨)。設定範囲は5〜300MBです。

OK キャンセル

S3上級設定タブ。マルチパート転送を有効にすると、しきい値の入力欄が使えるようになる。

- ストレージクラス — 新規アップロード時のS3ストレージクラス(Standard / StandardIA / IntelligentTiering / OneZoneIA / ExpressOneZone / GlacierInstantRetrieval / GlacierFlexibleRetrieval / GlacierDeepArchive)
- サーバー側暗号化 — None / SseS3 / SseKms(KMSキーIDの入力欄が表示) / SseC(Base64の256bitキー入力欄が表示)
- Transfer Accelerationを使用する

- **MD5によるファイル整合性チェックを行う**(既定オン)
- **最大同時アップロード数 / 最大同時ダウンロード数**(既定 各4)
- **マルチパート転送を使用する(通信中断時に再開可能)**(既定オフ) — しきい値を超えるファイルを分割して転送します。通信が途切れても、それまでに完了した部分は送り直さずに再開できます。
- **分割転送のしきい値 (MB)**(既定 100、設定範囲 5～300) — このサイズを超えるファイルが分割転送の対象になります。低速回線では 10MB程度、高速回線では 200MB程度が目安です。
- **EC2から同一リージョンのS3に接続** — 有効にすると、「使用状況とコスト目安」でこのドライブの転送コストを\$0として計算します(AWSは同一リージョンのEC2⇄S3間のデータ転送を課金しません)。リクエスト回数の料金(PUT/GET/LIST/DELETE)は通信の場所に関係なく発生するため、対象外です。

ドライブ設定

基本設定

S3上級設定

プロキシ / 帯域制限

キャッシュ

セキュリティ

ストレージクラス

Standard

サーバー側暗号化

None

☐ Transfer Accelerationを使用する

☒ MDSによるファイル整合性チェックを行う

☒ EC2から同一リージョンのS3に接続

有効にすると、「使用状況とコスト目安」でこのドライブの転送コストを\$0として計算します(AWSは同一リージョンのEC2⇄S3間のデータ転送を課金しません)。リクエスト回数の料金(PUT/GET/LIST/DELETE)は通信の場所に関係なく発生するため、対象外です。

最大同時アップロード数

4

最大同時ダウンロード数

4

☐ マルチパート転送を使用する(通信中断時に再開可能)

しきい値を超えるファイルは分割して転送し、通信が中断しても完了済みの部分から再開できます。アプリを再起動した場合は最初から再送されます。

分割転送のしきい値 (MB)

100

回線速度に応じて調整してください(低速回線: 10MB程度 / 高速回線: 200MB程度を推奨)。設定範囲は5〜300MBです。

OK

キャンセル

このPCが接続先バケットと同一リージョンのEC2インスタンス上で動作している場合にのみチェックを入れる。誤って有効にすると、実際には転送料が発生しているのにコスト目安が\$0と表示されてしまうため注意。

マルチパート転送を使う前に

分割転送の途中で通信が完全に切れたまま復旧しなかった場合、転送を取り消す要求も同じ回線を使うため送信できず、アップロード途中の断片がS3上に残ります。この断片にも保存料金がかかるため、バケット側に「未完了のマルチパートアップロードを自動削除する」ライフサイクルルールを設定してください。(AWSコンソールの場合: 対象バケット → 管理 → ライフサイクルルールを作成 → 「不完全なマルチパートアップロードの削除」を有効化)

また、再開できるのは**アプリを起動したままの間**だけです。アプリを終了・再起動すると、そのファイルは最初から送り直しになります。ダウンロードの再開には対応していません。

サーバー側暗号化とクライアント側暗号化の違い

ここで設定する「サーバー側暗号化」はS3が管理する暗号化です。あとで説明する「セキュリティ」タブの「クライアント側暗号化」とは別の機能で、両方を併用することもできます。

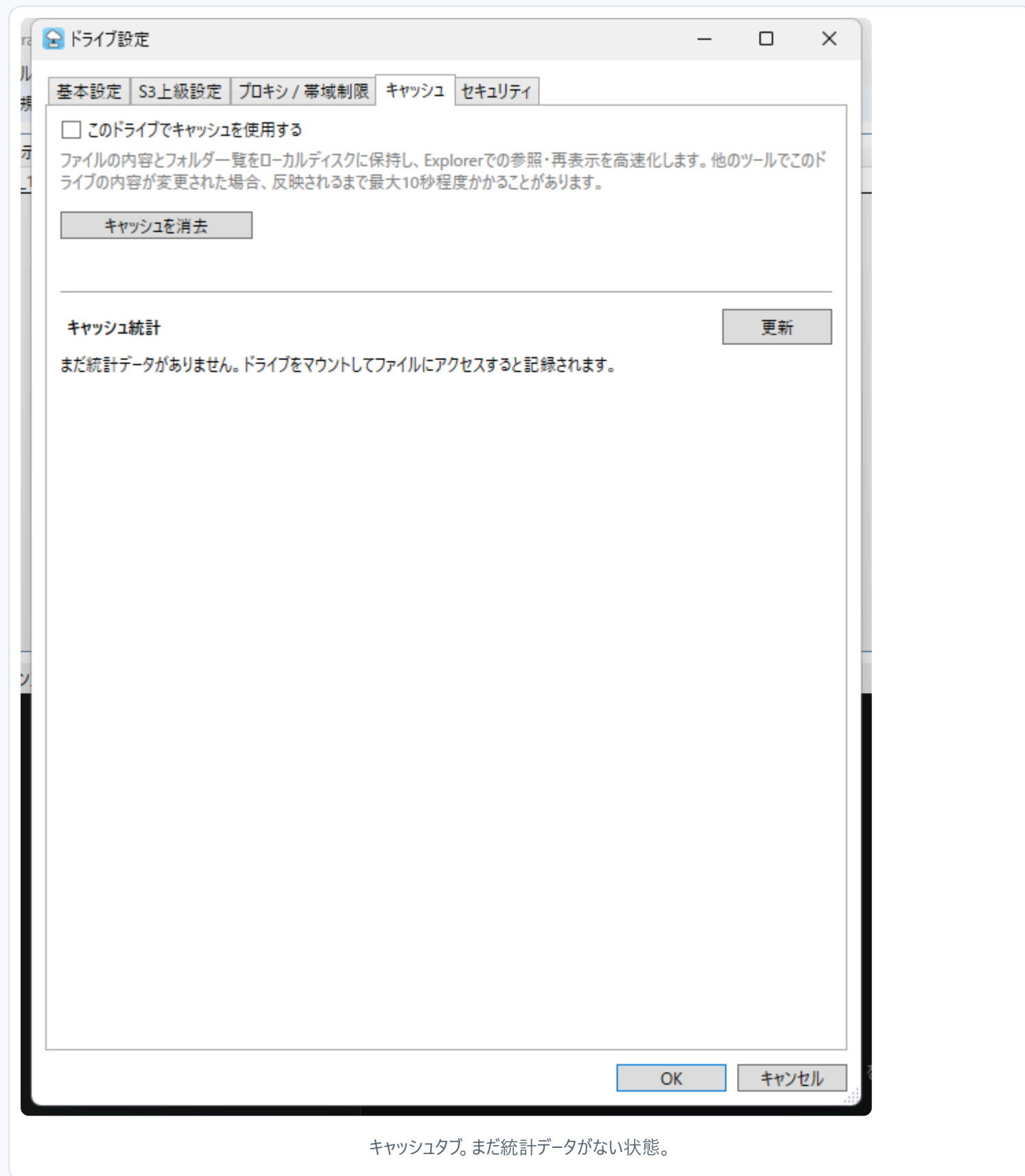
4.3 プロキシ / 帯域制限



プロキシ / 帯域制限タブ。

- プロキシサーバーを使用する — チェックするとホスト・ポート・ユーザー名・パスワードの入力欄が表示されます
- アップロード帯域制限(KB/s、0=無制限) / ダウンロード帯域制限(KB/s、0=無制限)

4.4 キャッシュ



「このドライブでキャッシュを使用する」を有効にすると、ファイルの内容とフォルダー一覧をローカルディスクに保持し、エクスプローラーでの参照・再表示を高速化します。

キャッシュ有効時の注意

他のツール(別のPC・AWSコンソールなど)でこのドライブの内容が変更された場合、S3 DriveBridge側に反映されるまで最大10秒程度かかることがあります。

「最大キャッシュ容量(MB)」で上限を指定できます(既定 1024MB)。「キャッシュを消去」ボタンでいつでもクリアできます。キャッシュ統計欄では、ヒット率やダウンロードを節約できた量を確認できます(「更新」ボタンで最新化)。

4.5 セキュリティ



セキュリティタブ。クライアント側暗号化と異常検知(ランサムウェア対策)の2つの機能。

クライアント側暗号化(E2E)

有効にすると、ファイルはこのPC上で暗号化されてからS3にアップロードされ、ダウンロード後にこのPC上で復号されます。S3側には暗号化されたデータのみが保存され、GratiasLLCを含め誰も平文を見ることはできません。

重要: パスフレーズの管理

このパスフレーズを紛失すると、暗号化済みのファイルは永久に復元できません。パスフレーズを変更すると、以前のパスフレーズで暗号化されたファイルは復号できなくなります(再暗号化機能はありません)。安全な場所に控えを保管してください。

複数PCで同じドライブを使う場合 — 暗号化の設定は必ず統一してください

同じドライブ(同じバケット)に複数のPCからアクセスする場合は、すべてのPCで「クライアント側暗号化」の有効/無効と、パスフレーズを完全に統一してください。パスフレーズさえ一致していれば、どのPCで保存したファイルも他のPCから正しく開けます(復号に必要な情報はファイル自体に埋め込まれるため、PCごとに個別に設定していても、パスフレーズが同じであれば問題ありません)。

暗号化が有効なPCと無効なPCを混在させる運用は推奨しません。1つのバケットの中に、暗号化されたファイルと暗号化されていないファイルが混ざった状態になり、次のような分かりにくい状況が生じます。

- **無効なPCから、有効なPCが保存したファイルを開く場合** — 開けません。「暗号化されたファイルを開けません」という通知が表示されます(セキュリティ上、暗号化されていないPCに暗号文の中身をそのまま渡すことはありません)。
- **有効なPCから、無効なPCが保存したファイルを開く場合** — 開けます。ただしエクスプローラー上ではどちらのファイルも同じように見えるため、保護されているつもりのファイルが実際には暗号化されていない、という取り違えが起こります。

また、あとから設定を統一しても、すでに保存済みのファイルが自動的に暗号化(または復号)されることはありません。混在した状態を解消する場合は、対象のファイルをいったんドライブの外へ退避し、設定を統一してから保存し直してください。

異常検知(ランサムウェア対策)

短時間に大量の削除・上書きを検知すると、それ以降の変更をS3へ反映するのを自動的に一時停止します。S3上の既存データは変更されません。誤検知の可能性もあるため、自動的なブロックのみで、削除は行いません。

既定: 無効(オプション)

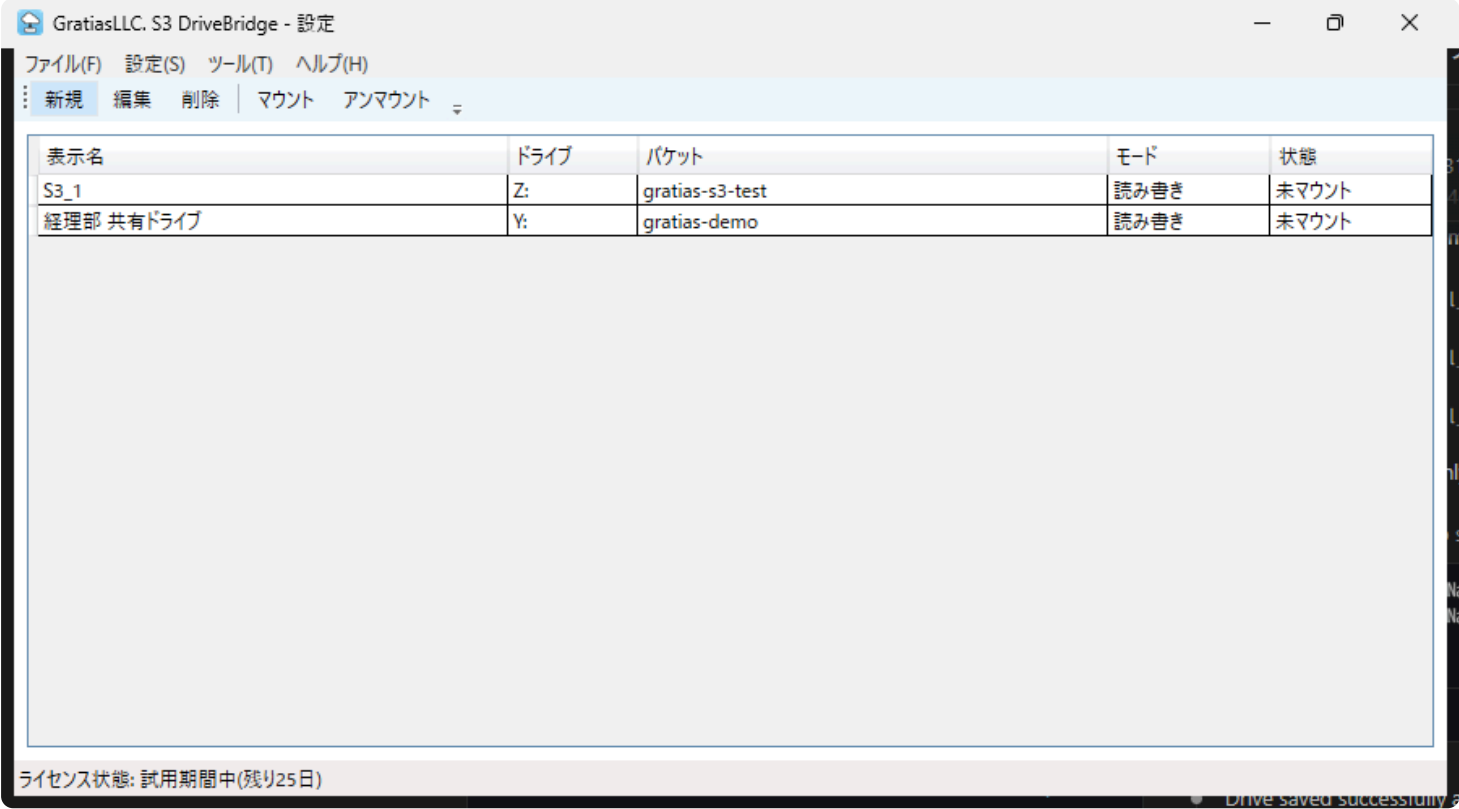
しきい値の既定: 30件

監視時間の既定: 60秒

検知して一時停止した場合は、トレイのバルーン通知とダイアログで確認を求められ、意図した操作(大量ファイルの整理など)であれば「同期を再開」で即座に解除できます。

5. マウント・編集・削除

一覧でドライブを選択し、ツールバーの「マウント」を押すとドライブレターとして使用可能になります。「アンマウント」で取り外せます。



表示名	ドライブ	バケット	モード	状態
S3_1	Z:	gratias-s3-test	読み書き	未マウント
経理部 共有ドライブ	Y:	gratias-demo	読み書き	未マウント

ライセンス状態: 試用期間中(残り25日)

Drive saved successfully

複数のドライブを登録できる。それぞれ個別にマウント/アンマウント可能。

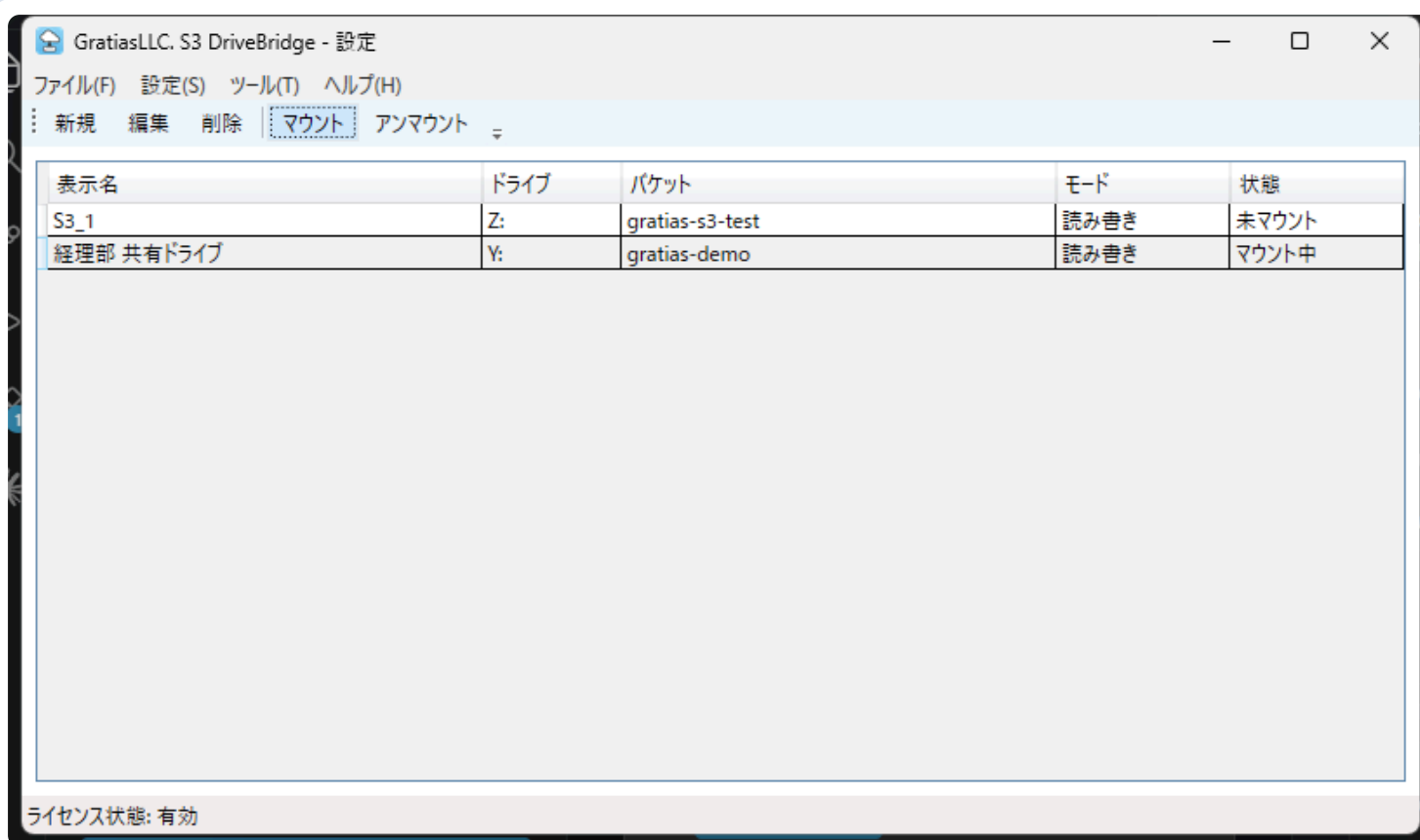
- 編集するには、対象行を選択して「編集」(マウント中は不可)
- 削除するには、対象行を選択して「削除」→確認ダイアログで「はい」(マウント中は不可)

転送中のアンマウント

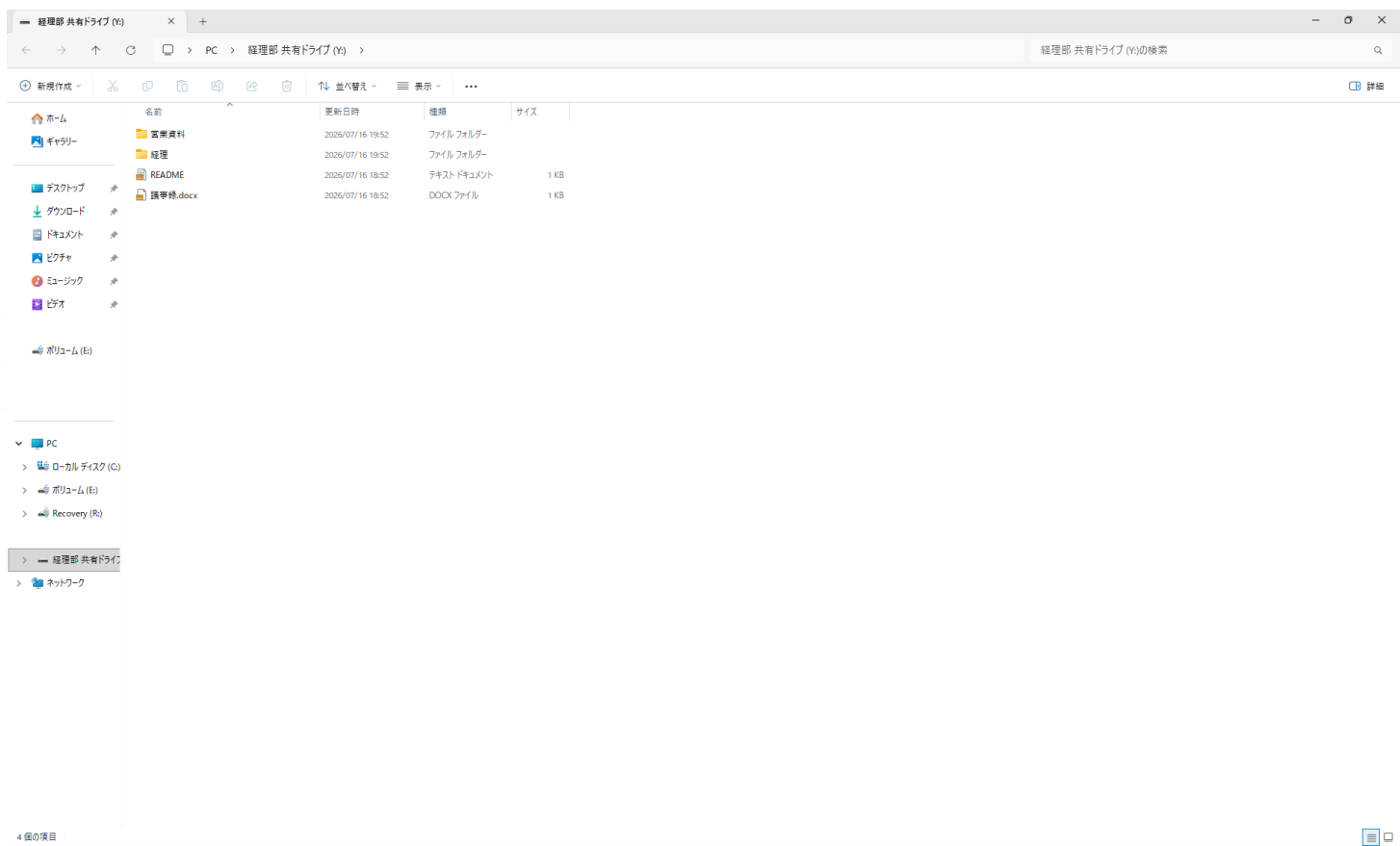
マルチパート転送で送信中のファイルがあるドライブをアンマウントしようとする、確認ダイアログが表示されます。ここでアンマウントすると転送中のファイルは破棄され、次回は最初から送り直しになります。既定では「いいえ」が選ばれているので、急ぎでなければ転送の完了を待ってからアンマウントしてください。

6. エクスプローラーでの利用

マウントすると、通常のドライブと同じようにエクスプローラーからアクセスできます。フォルダの参照、ファイルの作成・コピー・削除・リネームなど、いつもの操作がそのまま使えます。



「マウント中」と表示されているドライブは、すぐにエクスプローラーから開ける。



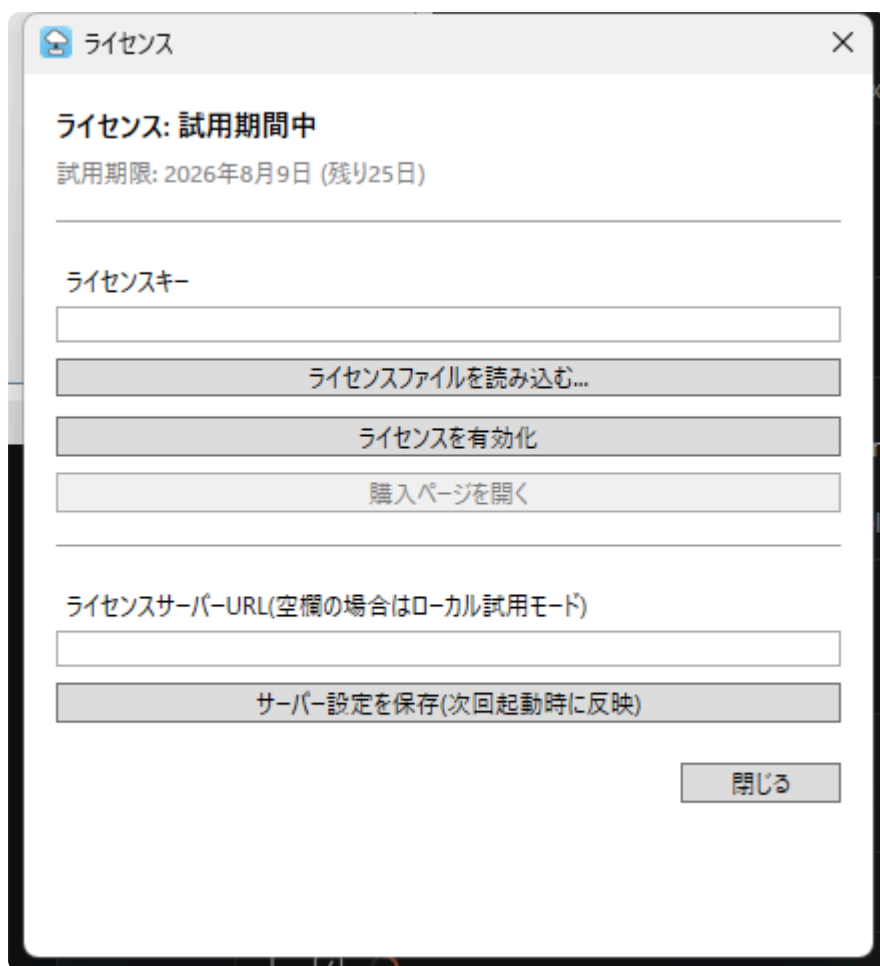
マウントしたドライブをエクスプローラーで開いたところ。

書き込みの仕組み

ファイルへの書き込みは、いったんこのPC上のメモリにバッファリングされ、ファイルを閉じたタイミングでS3へアップロードされます。暗号化が無効な場合はディスクへの一時保存も行わず、直接S3へ送信します。

7. ライセンスの有効化

「設定」メニュー→「ライセンス」から、ライセンスの状態確認と有効化を行います。初回インストール時は30日間の試用期間として動作します。



試用期間中の状態。期限と残り日数が表示される。

個人版(Personal)をお使いの場合

個人のお客様向けの「S3 DriveBridge Personal」では、ライセンスは常にGratiasLLC.から直接発行されるため、この画面に「ライセンスサーバーURL」「所属部門」の入力欄は表示されません。以下のライセンスファイルの手順・ライセンスキー欄はそのままお使いいただけます。

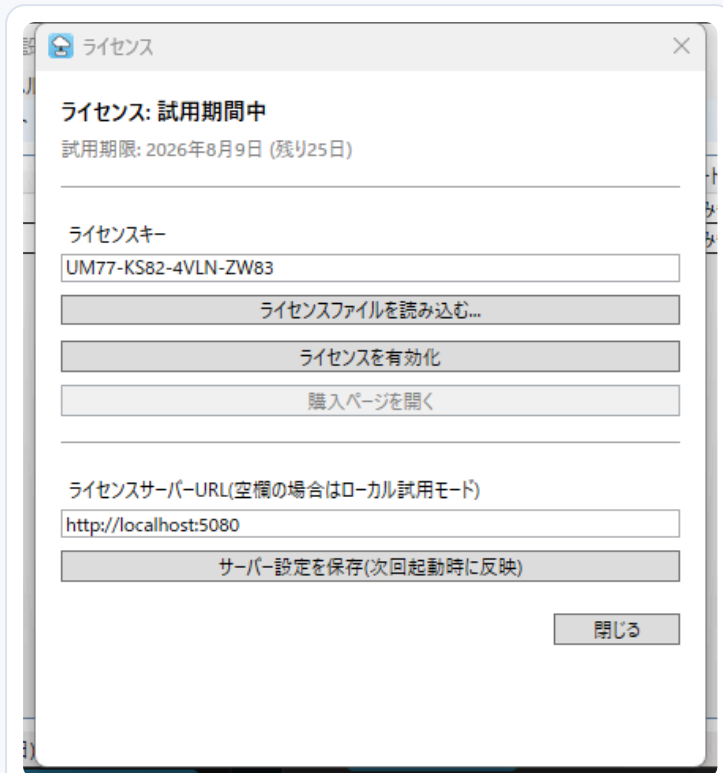
ライセンスファイルを使ったアクティベーション(推奨)

Site管理者(社内の情報システム担当)からライセンスファイル(License.lic)を受け取っている場合は、キーを手入力する必要はありません。

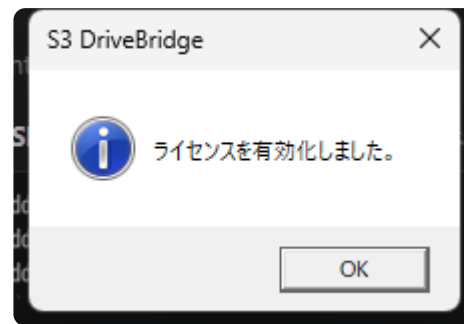
- 1 「ライセンスサーバーURL」欄に、管理者から案内されたURL(例: `http://license.example.local:5080`)を入

かし、「サーバー設定を保存」を押します。この設定は次回アプリ起動時から反映されます。

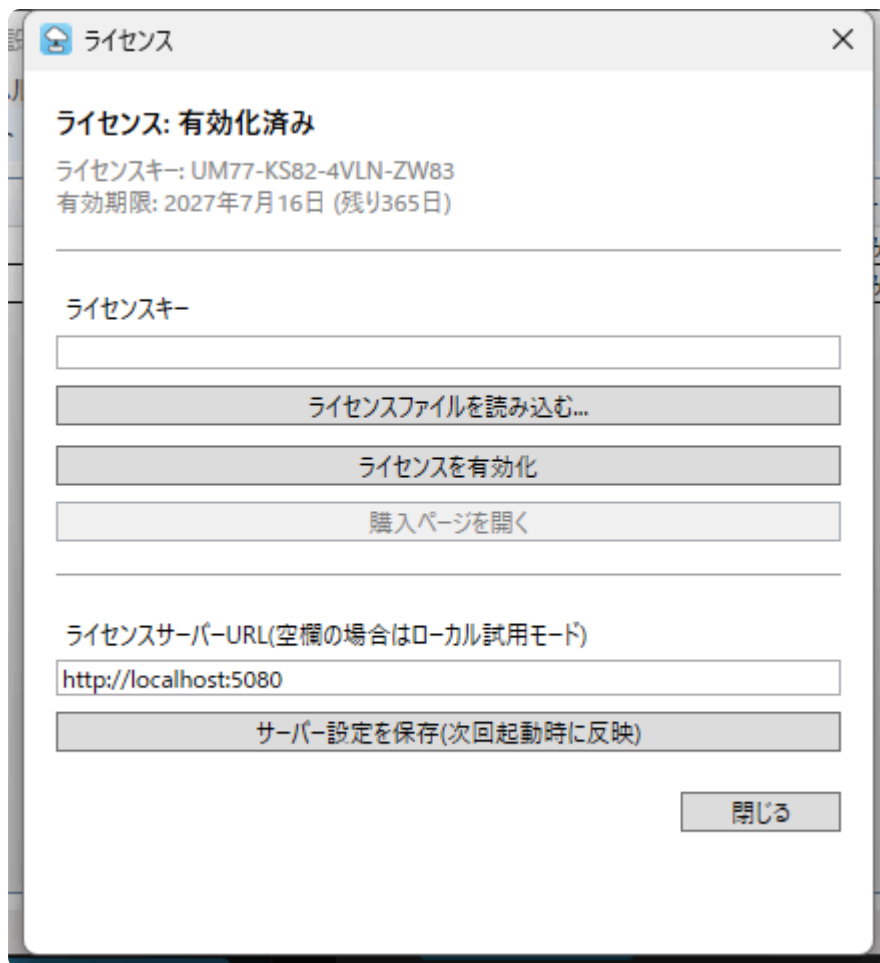
- 2 アプリを再起動します。
- 3 再度「ライセンス」画面を開き、「ライセンスファイルを読み込む...」から受け取った `License.lic` を選択します。ライセンスキー欄に自動的にキーが入力されます。
- 4 「ライセンスを有効化」を押します。



ライセンスファイルを読み込むと、キーが自動入力される。



有効化に成功すると確認メッセージが表示される。



有効化後は「ライセンス: 有効化済み」となり、有効期限が表示される。

ライセンスキーを直接入力する場合

ファイルを受け取っていない場合は、「ライセンスキー」欄にキーを直接入力し、「ライセンスを有効化」を押します。

状態の見方

状態	意味
試用期間中	ライセンス未入力。残り日数が0になると機能が制限される
有効化済み	ライセンスキーで認証済み。有効期限まで利用可能
猶予期間中	ライセンスサーバーに接続できない状態が続いている(下記参照)
試用期間終了 / 猶予期間終了	新規マウントがブロックされ、マウント中のドライブは自動的にアンマウントされる

サーバーに接続できない場合(猶予ライセンス)

有効化後にライセンスサーバーへ接続できなくなっても、すぐに使えなくなるわけではありません。「猶予ライセンス」として動作し、**約72時間以内に**接続が回復すれば通常どおり継続利用できます。回復しない場合は利用できなくなります。

期限切れ時の動作

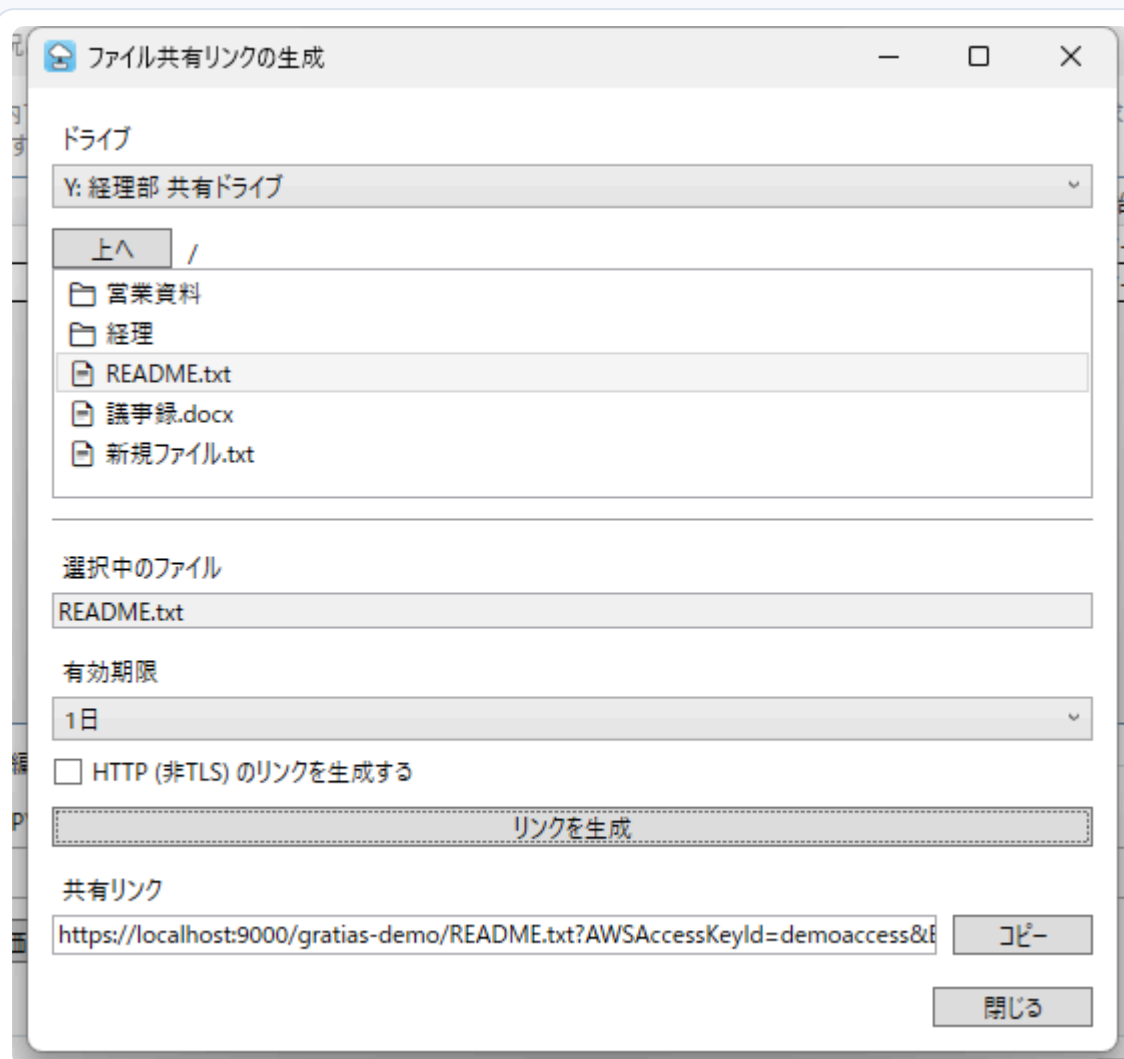
ライセンスが切れている状態で新規マウントしようとするブロックされます。また、マウント中に期限が切れた場合は、確認なしにすべてのドライブが自動的にアンマウントされ、通知が表示されます。

8. ツールメニュー

「ツール」メニューから、共有リンクの発行やバージョン管理、コスト確認など、日常運用に便利な機能を利用できます。

8.1 ファイル共有リンクの生成

社外・社内の相手にファイルを一時的に渡したいとき、S3の署名付きURL(有効期限付きのダウンロードリンク)を発行できます。ドライブを選び、フォルダをたどってファイルを選択し、有効期限(1時間 / 1日 / 7日 / 30日)を指定して「リンクを生成」します。



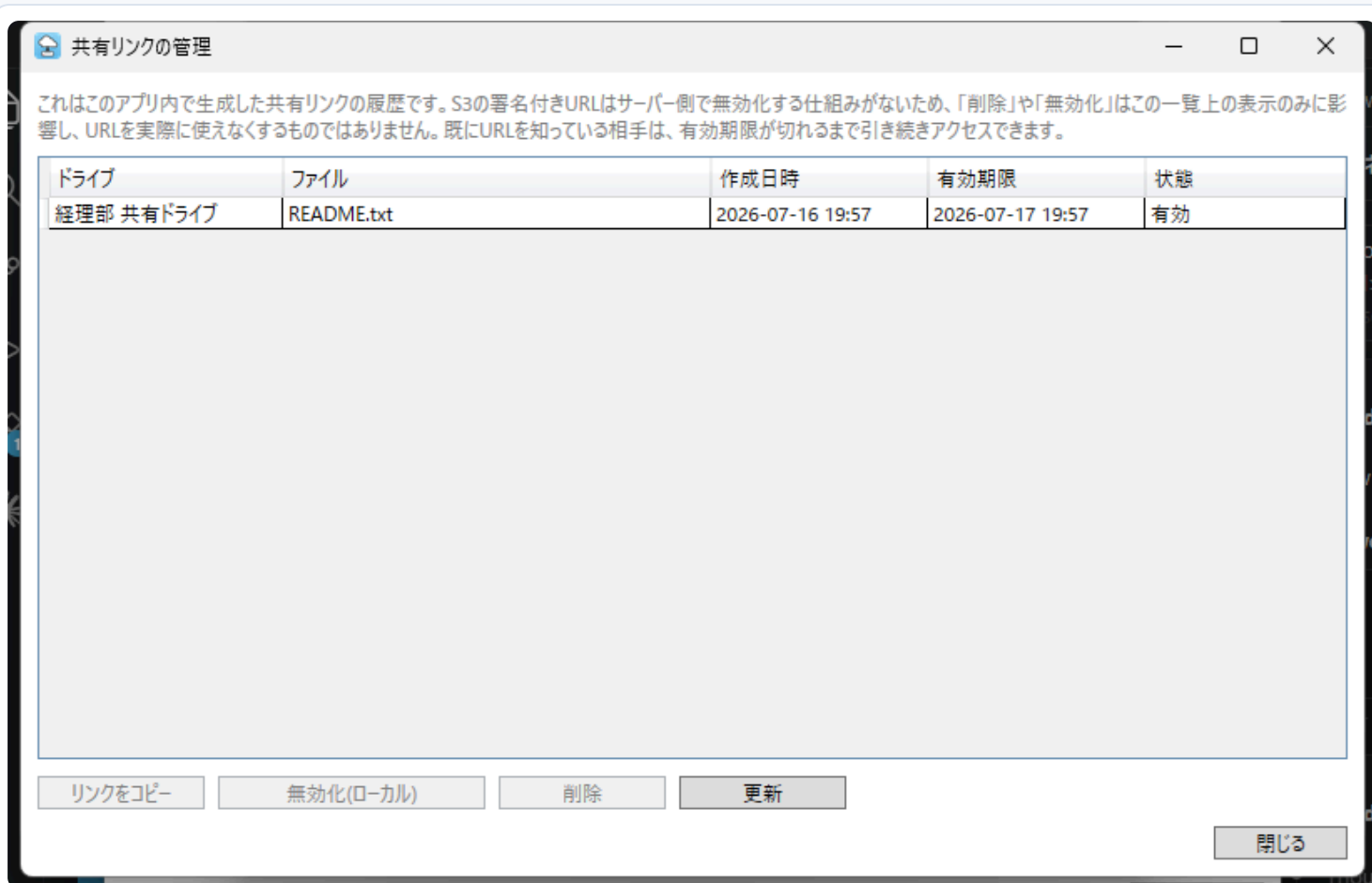
ファイルを選択してリンクを生成した状態。「コピー」でクリップボードに複製できる。

暗号化ドライブのファイルを共有する場合

クライアント側暗号化が有効なドライブのファイルを共有すると、ダウンロードだけでは中身を開けません。受け取った相手は、後述の「S3 DriveBridge Decryptor」ツールと、このドライブのパスフレーズ(共有リンクとは別の安全な経路で伝えてください)の両方が必要です。

8.2 共有リンクの管理

これまでに生成した共有リンクの履歴を一覧できます。



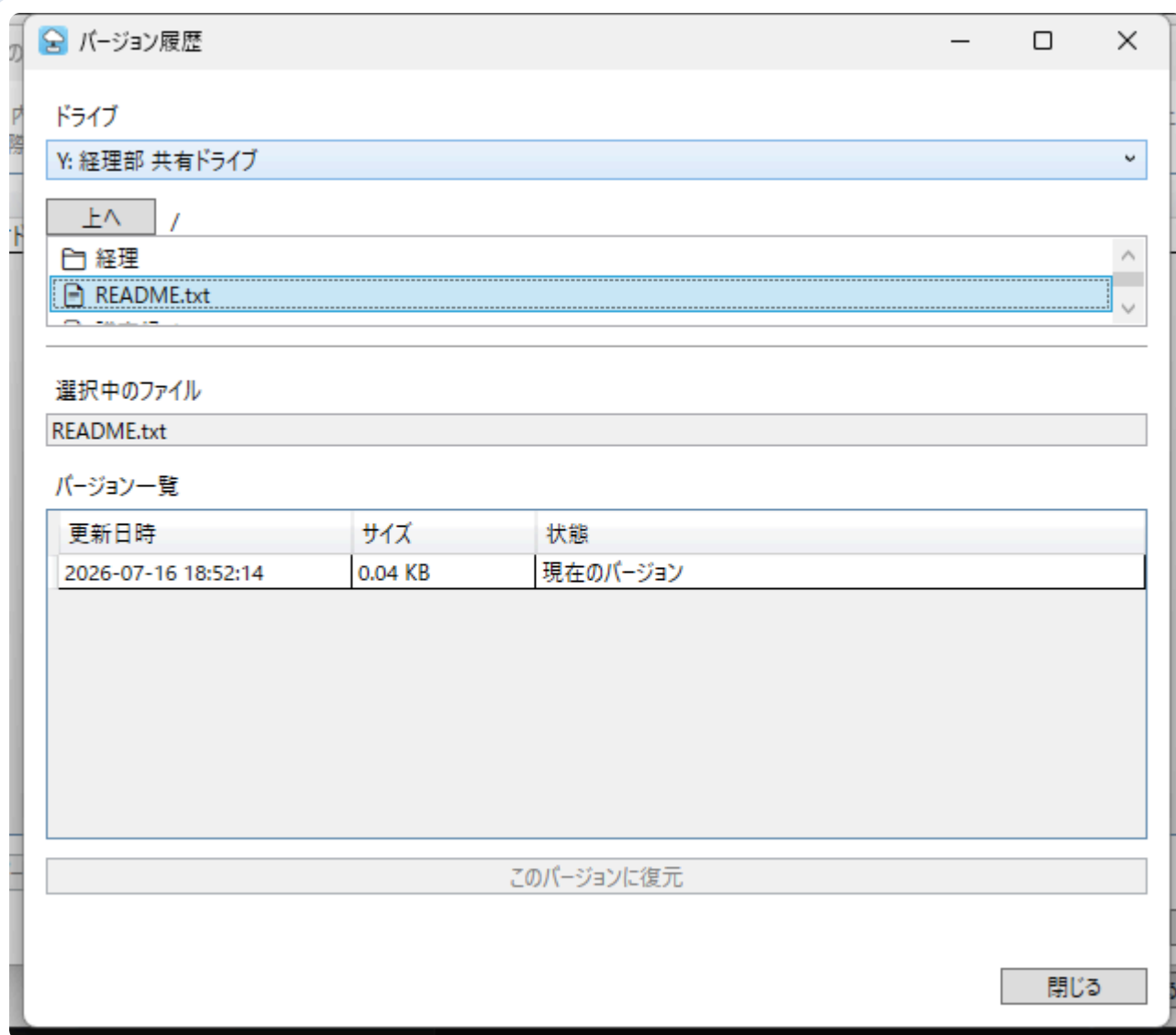
生成済みリンクの一覧。ドライブ・ファイル・作成日時・有効期限・状態を確認できる。

「削除」「無効化」は一覧上の表示のみ

S3の署名付きURLはサーバー側で無効化する仕組みがないため、この画面の「削除」や「無効化(ローカル)」は一覧上の表示にのみ影響します。URLを実際に使えなくするものではありません。既にURLを知っている相手は、有効期限が切れるまで引き続きアクセスできます。

8.3 バージョン履歴

ドライブとファイルを選択すると、そのファイルのバージョン一覧(更新日時・サイズ・現在のバージョンかどうか)が表示されます。過去のバージョンを選んで「このバージョンに復元」すると、現在の内容は新しいバージョンとして残したまま、選んだ内容が最新版になります。



選択したファイルのバージョン一覧。

S3バケット側のバージョンニングが必要

バケットのバージョンニングが無効な場合、「このファイルのバージョン履歴はありません」と表示されます。バージョンニングの有効化はAWS(S3)側の設定です。

8.4 使用状況とコスト目安

ドライブ別に、GET/PUT/LIST/DELETEのリクエスト数、アップロード量・ダウンロード量、概算コストを確認できます。単価は編集可能で、「単価を保存」で反映されます。「選択ドライブをリセット」で集計をリセットできます。

使用状況とコスト目安

これはアプリ内で計測したリクエスト数・転送量に、下記の単価を掛けた概算です。ストレージ容量課金は含まれておらず、実際の請求額とは異なる場合があります。正確な金額はAWS等の請求画面をご確認ください。

表	GET	PUT	LIST	DELETE	アップロード量	ダウンロード量	概算コスト	集計開始日
Z:	0	0	0	0	0.00 MB	0.00 MB	\$0.0000	2026-07-16
Y:	4	1	13	0	0.00 MB	0.00 MB	\$0.0001	2026-07-16

料金単価(編集可能)

PUT/COPY (USD/1000件)	GET/HEAD (USD/1000件)	LIST (USD/1000件)	転送量 (USD/GB)
0.005	0.0004	0.005	0.09

単価を保存

更新

Z: S3_1

選択ドライブをリセット

閉じる

ドライブ別の利用量と概算コスト。単価は編集可能。

「S3上級設定」タブで「EC2から同一リージョンのS3に接続」を有効にしたドライブは、概算コストの列に（EC2同一リージョンのため転送料\$0）という注記が付き、転送コストを\$0として計算していることが分かります。

使用状況とコスト目安

これはアプリ内で計測したリクエスト数・転送量に、下記の単価を掛けた概算です。ストレージ容量課金は含まれておらず、実際の請求額とは異なる場合があります。正確な金額はAWS等の請求画面をご確認ください。

表示名	GET	PUT	LIST	DELETE	アップロード量	ダウンロード量	概算コスト	集計開始日
Y: 経理部 共有ドライブ	1240	86	342	5	50.00 MB	300.00 MB	\$0.0030 (EC2同一	2026-07-10

料金単価(編集可能)

PUT/COPY (USD/1000件)

GET/HEAD (USD/1000件)

LIST (USD/1000件)

転送量 (USD/GB)

0.005

0.0004

0.005

0.09

単価を保存

更新

Y: 経理部 共有ドライブ

選択ドライブをリセット

閉じる

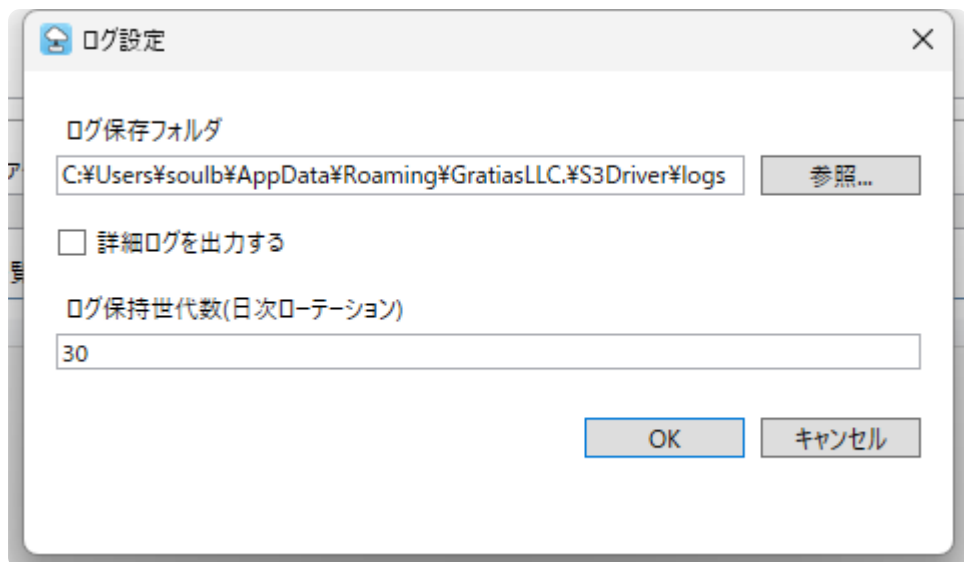
概算コスト列に「\$0.0030 (EC2同一リージョンのため転送料\$0)」のように表示される。

概算値であることに注意

これはアプリ内で計測したリクエスト数・転送量に単価を掛けた概算です。ストレージ容量課金は含まれておらず、実際の請求額とは異なる場合があります。正確な金額はAWS等の請求画面をご確認ください。

9. その他の設定

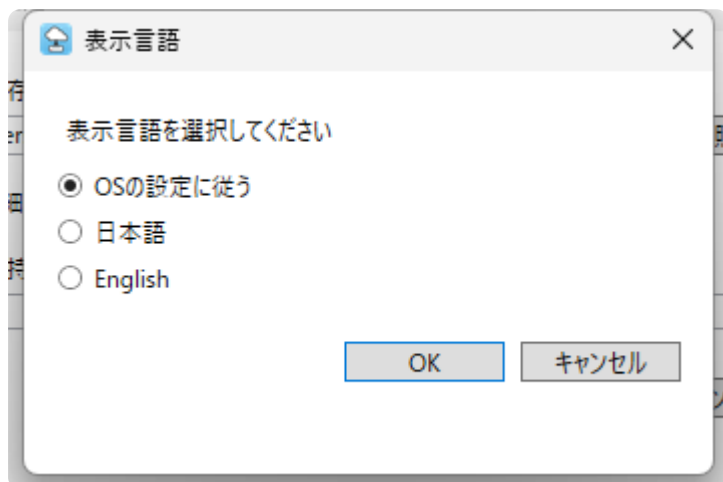
9.1 ログ設定



ログ保存フォルダ・詳細ログ・保持世代数を設定できる。

既定のログ保存フォルダは %APPDATA%\GratiasLLC.\S3Driver\logs です。「詳細ログを出力する」を有効にすると、トラブルシューティング時に役立つ詳細な情報が記録されます。設定変更は次回起動時から反映されます。

9.2 表示言語



「OSの設定に従う」「日本語」「English」から選択。

変更すると再起動を確認するダイアログが表示され、承諾するとアプリが自動的に再起動します。

9.3 バージョン情報



アプリのバージョン・発行元を確認できる。

10. システムトレイ

アプリはシステムトレイに常駐し、メイン画面を閉じても動作し続けます。トレイアイコンを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

- **設定を開く** — メイン画面を表示
- 登録済みドライブごとの行(例: Y: 経理部共有ドライブ (マウント中)) — クリックでマウント/アンマウントを切替
- **終了** — アプリを完全に終了

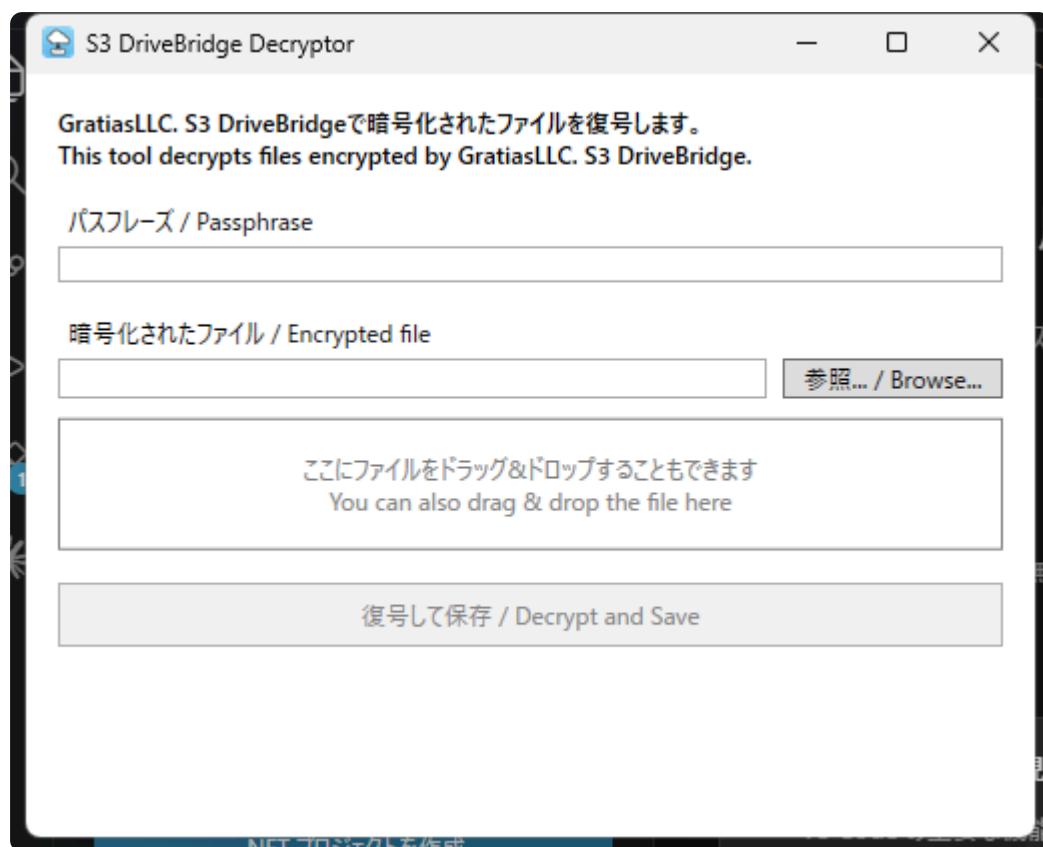
異常検知でドライブが一時停止している場合は、該当ドライブの行の下に「△ 同期を再開」という項目が追加表示されます。

通知が届くタイミング

書き込み競合の検知、オフライン時の書き込み保留・再送信完了、異常検知、暗号化されたファイルを開けなかった場合、ライセンス期限が近づいた場合などに、トレイのバルーン通知でお知らせします。

11. S3 DriveBridge Decryptor(復号ツール)

クライアント側暗号化が有効なドライブのファイルを、共有リンク経由で受け取った相手向けの、単体で動作する小さな復号専用ツールです。S3 DriveBridge 本体のインストールは不要です。



パスフレーズと暗号化されたファイルを指定するだけのシンプルな画面。

使い方はシンプルです。パスフレーズを入力し、「参照...」または画面へのドラッグ&ドロップで暗号化済みファイルを指定し、「復号して保存」を押すと、元のファイルとして保存できます。

配布方法について

このツールは .NET ランタイムを内包した単体exe(約140MB)として発行されています。サイズが大きいため、メール添付ではなく社内共有ドライブやクラウドストレージ経由で配布することを推奨します。

12. トラブルシューティング

症状	対処
インストーラーが「WinFspが必要です」と表示されて進めない	案内に従い winfsp.dev からWinFspをインストールし、セットアップ完了後にインストーラーを再実行してください。
ドライブの追加・編集画面を開くとアプリが落ちる	最新版に更新してください(過去に既知の不具合があり修正済みです)。改善しない場合はログ設定で保存先を確認し、ログファイルを添えてサポートにご連絡ください。
マウントに失敗する	「マウントに失敗しました: (エラー内容)」の内容を確認してください。エンドポイントURL・バケット名・アクセスキー/シークレットキーの誤り、TLS設定の不一致(HTTPのエンドポイントでTLSにチェックが入っている等)が典型的な原因です。基本設定タブの「接続テスト」で事前確認できます。
編集・削除ボタンが押せない	該当ドライブがマウント中です。先にアンマウントしてください。
大きいファイルのアップロードが、通信が途切れるたびに最初からやり直しになる	「S3上級設定」タブの マルチパート転送 を有効にしてください。しきい値を超えるファイルが分割して送られ、通信が途切れても完了済みの部分は送り直されません。ただし再開できるのはアプリを起動したままの間だけです。
フォルダの一覧表示や書き込みが遅い	「キャッシュ」タブでキャッシュを有効にすると改善する場合があります。プロキシや帯域制限の設定も確認してください。
ライセンスが有効化できない	「ライセンスサーバーに接続できませんでした」の場合はネットワーク接続とサーバーURLを確認してください。「ライセンスキーが無効です」の場合はキーの入力内容、または管理者への割当状況を確認してください。
社外やVPN接続時だけライセンスが有効化・更新できない(社内では問題ない)	Site管理者が運用するライセンスサーバーは、社内LAN内のPCからのアクセスのみを許可する設定になっている場合があります。社外・VPN経由では接続できないことがあるため、Site管理者に確認してください。
突然すべてのドライブがアンマウントされた	ライセンスの期限切れ、または猶予期間(約72時間)を超えてサーバーに接続できなかった可能性があります。「ライセンス」画面で状態を確認してください。

13. 制限事項一覧

- クライアント側暗号化はパスフレーズの変更(再暗号化)に対応していません。紛失すると復元できません。
- マルチパート転送の再開はアプリを起動したままの間に限られます。アプリを再起動すると最初から送り直しになります。ダウンロードの再開には対応していません。
- マルチパート転送を有効にする場合、未完了のマルチパートアップロードを自動削除するライフサイクルルールをバケット側に設定してください(通信断で転送が失敗すると断片が残り、保存料金がかかります)。
- 同じバケットを、クライアント側暗号化が有効なPCと無効なPCで混在してマウントする運用は推奨しません。暗号化の有効/無効とパスフレーズは、そのバケットを使う全PCで統一してください。
- 異常検知(ランサムウェア対策)は既定で無効です。有効にするとファイル操作ごとに多少のオーバーヘッドが発生します。
- バージョン履歴は、S3バケット側でバージョニングが有効になっている場合のみ利用できます。
- 共有リンクの「削除」「無効化」はローカルの表示上の管理であり、実際のURLは無効化されません。
- 暗号化ドライブの共有リンクを受け取った相手は、Decryptorツールとパスフレーズの両方が必要です(パスフレーズは別経路で伝達する必要があります)。
- ログ設定・表示言語の変更は、次のアプリ起動(または再起動)から反映されます。
- 使用状況・コストの表示はリクエスト数と転送量に基づく概算で、ストレージ容量課金は含まれません。
- WinFsp は同梱されないため、初回インストール時は別途インストールが必要です。
- ライセンスサーバーへの接続が72時間以上できない場合、猶予期間が終了し利用できなくなります。